

ばく りゅう
麥粒

2026. Winter

麦粒 / NO. 146

発行・キリスト教センター

目 次

- 「今日、救いがこの家を訪れた」 …… 石田 聖実 (2)
- 『幸せ』になるために」 …… 木船 久雄 (6)
- 「イエスの病気治しにみえる平和の希求」 … 宮坂 清 (13)
- 「科学とキリスト教の違い」 …… 山口 弘 (16)



「今日、救いがこの家を訪れた」

石 田 聖 実

イエスはエリコに入り、町をとおられた。そこに、ザアカイと言
う人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな
人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見ることがで
きなかつた。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく
桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエ
スはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降
りて来なさい。今日は、あなたの家に泊まることにしている。」ザアカ
イは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆
つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、
ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、私は財産の半分を貧し
い人々に施します。また、誰からでも、だまし取った物は、それを四倍
にして返します。」イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家を訪れ
た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜
して救うために来たのである。」

(ルカによる福音書 19章 1～10節)

ルカによる福音書 2章によってイエス・
キリストの誕生の物語が読まれました。
その中に、天使が羊飼いたちに告げた
「今日ダビデの町で、あなたがたのため
に救い主がお生まれになった。この方こ
そ主メシアである。」という言葉があり
ました。そこに「今日」という言葉があ
ります。そして、私のお話のために今し

がた読まれたルカによる福音書19章にも
「今日、救いがこの家を訪れた。」という
イエスの言葉がありました。「今日」と
はいつでしょうか？

天使の言葉の「今日」は、今年はいエ
ス・キリストがお生まれになってから
2025年ですから、2025年前のある日の夜
ということになります。また19章の方は、

それから30年ほどたって、イエスがザアカイの家に泊まった日ということになります。

けれども、聖書が告げる今日は、2000年前の過去のある日ではありません。ギリシア語で「時」を表す言葉には、クロノスという言葉とカイロスという言葉があります。クロノスは時計やカレンダーで表示することができる時刻や日付です。カチカチと秒針が進むに従って、すべてのは過去へと流されていきます。けれども「時」という言葉にはもう一つの意味があります。それがカイロスです。例えば人生が大きく変わるような出来事があったとき、それはもちろん日付と時刻で表すことができますが、単なる日付と時刻以上の意味が込められて語られることになります。

キリスト教信仰においては、神は父なる神・子なる神・聖霊なる神の三位一体の神とされ、イエス・キリストは子なる神が人間となってこの世に来られたのだと信じています。神がただ高いところにいるのではなく、低いところまで来られた。それも無実の罪を着せられて死刑囚として鞭打たれ、十字架という古代ローマでも最も残酷な方法で殺されるという低いところまで来られたのです。このイ

エスの死を弟子たちは、人間の罪を背負って死んだものと受け取ったのです。使徒パウロはフィリピのクリスチャンたちへの手紙の中で「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」と書いています。神の子が、人となって人々の罪を背負わされて死んだ。この死が人の罪を赦す神の恵みとなりました。

さっき読んだルカによる福音書19章にザアカイという男が出てきました。「徴税人の頭で、金持ちであった」と書かれています。徴税人というのは税金を集める人ですが、現代の税務署の職員とはかなり違います。税務署の人は概して親切に税の計算の仕方を教えてくれます。私たちが納める税金は日本のために使われます。ザアカイが集める税金はローマ帝国に納められました。これは当時のユダヤがローマの属領だったからです。ユダヤが国として滅亡していたことを如実に示す嫌な税金です。それだけでも徴税人は嫌われます。それだけではありません。徴税人はたいてい不当な徴税をしていた

のです。彼らが集める税金は全部がローマへ行くわけではなく、自分たちの給料も含まれます。その分を多く人々から取り立てたりしていたのです。どうせ嫌われるんだから、嫌われついで、がめつく所定以上に金を取っていました。だから徴税人という言葉は娼婦という言葉と並んで悪人の代名詞だったのです。

なぜ、ザアカイはそんな職業を選んだのでしょうか？ザアカイは背が低かったと書いてあります。ここからは私の推測になってしまいますが、子供の頃から背が低くてチビチビと馬鹿にされていたのではないのでしょうか。そうしたことが人間への不信感を形成し、お金を稼ぐことを第一にするようになったのではないのでしょうか。金持ちになって、俺をバカにしていた連中を見返してやりたい。そしてローマ帝国の権力を背景にして税金を徴収することはある種の快感だったのかもしれませんが。

でも、友達がいなくなります。彼に心を開くのは同じ徴税人の仲間達だけでした。そんな彼の町にイエスがやってくるという知らせがあった。有名なイエスという人を一目見てみたい。そう思ったのだけど、イエスの周りは大勢の人ばかり。背が低いので、背伸びしてもジャンプし

ても見えない。そこでイエスの行く先を見ると登れそうな木がある。先回りして木に登って高いところからイエスを見ようと思いました。イエスとその周りの人々は予想通り木のところへやってきました。イエスというのはこんな人なのかと思っていると、イエスが木の下で止まって、上を見上げて「ザアカイ、降りて来なさい」という。突然名前を呼ばれてびっくりしていると、さらにイエスは言いました。「今夜はあなたの家に泊まるから」。

これにはザアカイ本人も周りの人も驚きました。ザアカイの家に客なんて来たことはありません。彼は急いで木から降りて家に駆け戻って、宴会の準備をしました。やがてイエスがやってきて、宴会が始まります。食事を一緒にするという事は友達になるということでもありません。

通りかかった人が、一体なんだろうと思って覗き込むとそこにイエスがいます。人々は言いました。「イエスはなんでザアカイなどという悪党のところで宴会なんかやってるんだ？」でも、ザアカイは言いました。「わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。もう悪者の生き方とはお

さらばします。今までは人から金をふんだくって、自分の財産を増やして、みんなを見返してやろうと思ってたけど、もうそんな生き方はやめます。自分の財産の半分は貧しい人々のために使います。取りすぎた税金は4倍にして返します。すっかり人が変わったザアカイがそこにいました。「今日、救いがこの家を訪れた。この人も神様が愛してくださっている人間なんだから。（「アブラハムの子」

とはそういう意味)。人の子（すなわちイエス）は神様の愛からはぐれてしまった人を探して救うこと、神様を敬い人を愛する人にするために来たのだ」と言いました。

「今日」です。いつでも、どこでも、あなたがイエスの呼びかけを聞いて、イエスを迎えるなら、その日、その場所が「今日」であり、クリスマスとなるのです。

(いしだ きよみ 日本基督教団鈴鹿教会牧師・本学非常勤講師 2025.12.19 大学クリスマス礼拝説教)

「『幸せ』になるために」

木 船 久 雄

たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。

(ガラテヤの信徒への手紙 6章9節)

はじめに

今、皆さんは幸せですか。幸せってなんでしょうか。幸せになるためにはどうしたら良いと思いますか。今日は「幸せ」について皆さんと一緒に考えたいと思います。

最初に今回、このテーマを選んだ理由を述べます。これには幾つかあります。その一つは自身が年齢を重ね、大学教員の定年を迎えることです。このタイミングは自らの人生を振り返るとともに、残る人生の過ごし方を考える機会となっています。二つ目は、今年の5月、親族の一人が94歳で孤独死したことです。誰にも看取られず、死後三ヶ月近く放置されていました。今際の際（いまわのきわ）に彼女は自らの人生をどう捉えただろう、と思いを巡らせました。三つ目の理由は、ゼミ生の一人が幸福をテーマに卒業論文に取り組んでいることです。私自身も改

めて「幸せ」について勉強し、考えるようになりました。

さらに、四つ目は経済問題です。私の所属する経済学部では、学生たちは必ずGDP、国内総生産といいますが、について学習します。GDPは豊かさを表わす代表的な経済指標であり、実際にその成長率が政府の政策目標として掲げられます。つまり高いGDP成長率の実現が国民を豊かにし幸せに導いてくれる優れた政府の証だというわけです。しかし一方で、近年は循環型経済・サーキュラーエコノミーの推進といった政策が進められています。サーキュラーエコノミーとは財の再利用を前提とする経済システムです。ところが中古品はGDPに計上されないため、サーキュラーエコノミー推進はGDPを成長させません。これは政策矛盾でしょうか。ここにGDPだけでは、豊かさを測れないという現実があり

ます。豊かさや幸せの本質は何だろう、改めてそんなことを考えています。

「幸せ」とはなにか

さて、幸せとは何でしょうか。幸せを感じる時はどんな時でしょうか。お腹がいっぱいになった時？ 心を寄せる相手とデートしている時？ 通常はこういう状態が幸せだと言われます。自分にとって望ましい状態であること、不満がないこと、それから満足感や幸福感を感じている時やこと、などです。

現在、「しあわせ」の漢字表記は幸福の「幸」を用いるのが一般的ですが、古には仕事の「仕」に合格の「合」と書いて「仕合せ」と表記していました。「仕合せ」が「幸せ」に変わったのは明治から昭和初期にかけてだと言われます。また、2000年代以降から、とりわけ最近では「幸せ」や「幸福」や「豊かさ」の代わりにウェル・ビーイング（Well-Being）という言葉も使われるようになっていきます。

「幸せ」の要素

幸せを構成する要素とはどのようなものでしょうか。それを知るために、幸せとは何か、何が幸せをもたらすか、どん

な時に幸せを感じるか、などを明らかにする必要があります。そうした問題を扱う研究成果に従うと、幸せの構成要素は次のようにまとめられます。

構成要素は大きく二つに分けられます。物的要素と心的要素です。物的要素には心身の健康や経済的余裕が含まれます。一方の心的要素は「生きがい」、「自己決定」、「感情コントロール」、「人間関係」などです。「生きがい」は自分の人生に意味や意義を見出すこと。「自己決定」は自分の価値観で意思決定できる自由。さらに、「感情コントロール」は自らの感情を制御できること。怒りはストレスをもたらすので、怒らないことが得策です。そして「人間関係」は良い人間関係を持つこと、信頼している人がいること、仲の良い家族がいることなどです。

世界には幸福やWell-Beingに関して多くの研究があります。日本でも内閣府が2019年から満足度調査を行っています。図1の「満足を規定する要素」は、内閣府の調査データを解析した研究を元に作成したものです。満足度、ここでは幸福と読み替えますが、それを構成する要素の相対関係が判ります。左側が物的要素で、右側が心的要素を示します。物的要素に含まれるお金や健康はもちろん重要

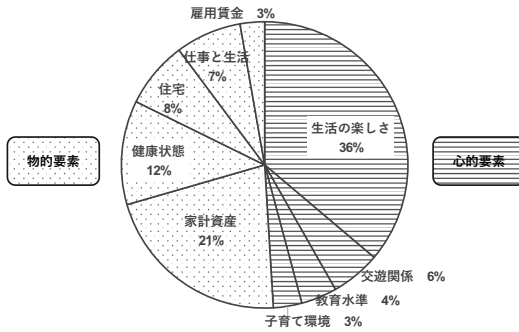


図1 満足度を規定する要素

(資料) 内閣府 (2025) 「満足度・生活の質に関する調査報告書2025～我が国のWell-beingの動向～」の回帰分析結果を基に作成

です。しかし、右側の心的要素も重要で、他者との良い人間関係を基にした心的要素が満足や幸福感の半分程度を占めると考えられます。

また、OECD・経済協力開発機構は主要国についてウェル・ビーイング指数な

るものを作成しています。この指数は、住宅、所得、仕事、コミュニティなど11区分24項目の調査データが元となります。結果をみると、日本の順位は調査対象41か国の中で上から29番目です。市民参加、ワークライフバランス、健康、コミュニ

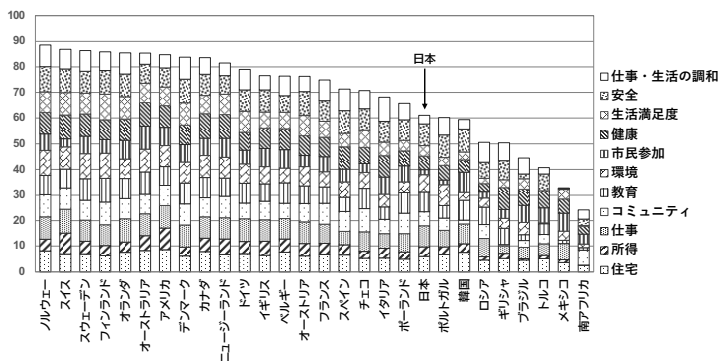


図2 OECDによる主要国の幸福度評価

(資料) OECD (2025) Better Life Index 2024

ティといった項目が相対的に劣位にあることが示されています。日本のGDPは世界第4位ですが、幸福度はそれほど高くはない、日本人はあまり幸せではない、というわけです。

誰が「幸せ」か

それでは、誰が、あるいはどんな属性の人が幸せか、という点を幾つかの調査から確認しておきましょう。

先ず年齢層による幸福度の違いです。保険会社や内閣府の調査によれば、年齢層ごとの幸福度は皆さんぐらいの年齢の10代後半から徐々に高まります。この理由は自分でいろいろ決めることができるようになるから、あるいは自分で目標を持ちそれを実現するようになるからだと考えられます。ところが働き盛りになる30代後半から40代50代前半まで幸福度は落ちてきます。この年齢層は職場・家庭・地域など様々な社会的ストレスを抱えるからでしょう。さらに年齢を重ねると、幸福度は再び上昇し始め70代後半にピークを迎えます。後は余生だから、過去を振り返って「私の人生は不幸であった」などと自己否定するわけにはいかないと意識が手伝うのかもしれませんが。ただし、80歳を過ぎると少し不安感が増し

てきます。健康の問題が出てくるからです。

性別で比較すると、女性の方が男性よりも満足度、幸福感が高い傾向があります。

また所得と幸福感との関係は、所得は高いに越したことはないと思うかもしれませんが、幸福感がピークになるのは世帯あたり所得で1,500万円前後です。一人当たりでは、およそ700万円の所得が幸福感の最も高い水準です。それ以上高くなるとどうなるか。おそらく地位や責任が重荷になることや、資産や立場の維持に不安やストレスを感じるようになるでしょう。

次に配偶者の有無と幸福感との関係です。この問題はとりわけ男子学生の皆さんに意識して貰いたいと思います。結婚するかしないか、どちらが幸福だと思いますか。調査によれば、女性は結婚した人もしなかった人も幸福感にさほど違いはなく、いずれも男性より高い。しかし男性は、結婚しなかった人の幸福感はした人のそれよりも著しく低い。おそらく女性は一人で生きていく逞しさがあるのでしょう。しかし、男性は一人だと孤独になり寂しくなって不安感に苛まれてしまうのかもしれませんが。

さらに、コミュニティへの帰属と幸福感との関係です。ここで言うコミュニティとはクラブ、サークル、大学もそうですし、アルバイト先、ボランティアもそうです。某かのコミュニティに属している人の方が、属していない人よりも幸福感は高い傾向にあります。

もう一つ、人間関係と幸福感とのつながりです。良好な人間関係を持っている人。その人たちが最も幸福感の高い生活実践者です。多くの研究は、人間関係は幸福感を形成する最重要要素と位置づけています。

若者の欲求と年長者の達観

ところで、何を幸福と感じるか、何に満足感を得るかは年齢層や世代によって異なります。幸福感は欲求の充足であると捉えれば、年齢層の幸福感の違いはその欲求の違いと考えることができます。そこで、皆さんのような若者世代の欲求と、それに対する私のような高齢者の考えを比較してみましょう。

皆さんのような若い世代は、お金持ちになりたいとか、他人の目が気になって周りに合わせて流行の服を着たいとか、そういう欲求があるでしょう。かく言う私も若いときはそうでした。しかし、高

齢者になると、そういうことはどうでも良いことのように思えてきます。お金は無いよりは有ったほうがいい。でも無尽蔵には要りません。周りと比較してカッコイイ方がいい。しかし、周りの目は自分が想うほど自分のことを観ていないし、そもそも人は他人にそれほど興味を持っていないということにも気がつきます。その結果、重要なのは他人の評価ではなく、自分自身の価値観に裏付けられた満足だ、となります。

これ以外にも、若い世代の欲求や価値観には次のようなものもあるでしょう。友達が多い方が良い、平凡な人生はつまらない、暴飲暴食は楽しい、時間は溢れるほどある、イベントは楽しい特別の日、出世こそ勲章、歯磨きしないで就寝、などです。これに対する私の見解は順に、友達の数の問題じゃない、派手さより平凡で普通の人生が一番、暴飲暴食よりも健康が大事、時間は無限ではなく有限で今こそが重要、イベントも日常の一コマだし、出世しても幸せとは限らない、歯は一生ものだから大事にすべし、です。

若者の幸せは瞬間の満足に重きを置く傾向があります。つまり、お腹一杯だから満足で幸せ、あるいは好きな人とデートしているから幸せ、そんな具合です。

しかし年を重ねると、そういう瞬間の幸福感よりも、長い目で見た長期の、生涯の幸せを考えるようになります。死ぬ間際に「我が人生に悔いなし」とか、「ああ、幸せな人生だった」と言える人や条件とは、何だろうかと改めて思うのです。

「幸せ」になるために

いよいよ今日の話の結論です。心豊かで幸せな人生をおくるためには、幸せになるためにはどうしたら良いでしょうか。言うまでもなく、生きていくためには最低限のお金は必要です。また、健康も大事です。しかし、さらに重要なのは豊かな人間関係です。それが幸せの鍵を握っています。

では、良好な人間関係を築くためにはどうしたら良いでしょうか。まず相手に興味を持つことです。そして話しかけること。ただし、少し気遣いが必要です。相手への配慮です。そのスタートはまずは挨拶です。

かつて「しあわせ」の漢字表記は、仕事の「仕」に合格の「合」を使っていたと話しました。仕事の仕は仕える（つかえる）ということですから、「仕合せ」とは人と人が互いに仕え合うことです。つまり、相手と自分が仕え合い、尽くし

合うことに喜びを覚え幸福を感じるのです。

ここで一つ本を紹介します。『グッド・ライフ 幸せになるのに、遅すぎることはない』という本です。この本の帯にはこんなことが書いてあります。「幸せになるのに遅すぎることはない。幸せな人生の扉は意外なほど身近にある」。

この本はアメリカのハーバード大学で行われてきた成人発達研究の成果です。研究は1940年代にスタートし、80年以上の長い期間をかけて実施され、現在も進行中です。精神科医と心理学者たちの研究グループは調査対象の卒業生たちにインタビューを行い、その対象者を継続的に追跡調査してきたのです。調査対象の人が亡くなると、その子供たちを調査対象としてインタビューする。膨大な時間と労力が注がれた、人の幸せに関する研究です。

この本にはいくつかの興味深いメッセージがあります。人間関係の満足度は、人生の幸福感や満足度と驚くほど強い関係がある。良い人間関係はストレスを強力に抑制してくれる。健康で幸せな生活を送るためには良い人間関係こそが必要である。良い人間関係を持つ人が長生きをするそうです。おそらくそれが精神的な

ストレスを減らし長寿をもたらすの
うと説明しています。

良い人間関係を築くためには他者への
興味関心と気配りが必要です。自分がし
て欲しいと思うことを相手にするように
接しましょう。

おわりに

今日の話のまとめは本学の建学の精神
「敬神愛人」です。良い人間関係が幸せ
をもたらす。このことは、私たちが日ご
ろ目や耳にする「敬神愛人」の精神その
ものだと気が付きます。汝の隣人を愛せ

よ、それです。「マタイによる福音書22
章39節」を引きます。

「先生、律法の中で、どの掟が最も重
要でしょうか。」

イエスは言われた。「心を尽くし、精
神を尽くし、思いを尽くして、あなたの
神である主を愛しなさい。これが最も重
要な第一の掟である。第二も、これと同
じように重要である。隣人を自分のよう
に愛しなさい。」

皆さん、良い人間関係を築いて人生全
体を豊かにし、そして幸せになりましょ
う。

(きぶね ひさお 経済学部教授 2025.11.6 しろとりチャペルアワー奨励)

「イエスの病気治しにみえる平和の希求」

宮 坂 清

イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

(マルコによる福音書 2章17節)

本日は「イエスの病気治しにみえる平和の希求」と題して、イエスとその活動の初期に行った数々の病気治しに平和を希求する意図がみえるということについて、私的な話も交えてお話をさせていただこうと考えています。

恥ずかしながら私は幼少期から大人になるまで長いことキリスト教を誤解し、ある種の偏見を抱いてきました。キリスト教のかかわりはカトリック系の幼稚園に通ったことに始まります。その幼稚園のホールの壇上にあったイエスの磔刑像を今でもありありと覚えています。私がそれを見て感じたのは、とにかく痛そう苦しそうであるということで、その印象が非常に強く、不幸なことに私はその感情に完全にとらわれてしまいました。幼稚園の庭にはそれと対照的に非常に柔和な表情をした聖母マリアの像が立っ

ました。しかしその手に抱かれた幼子、その幼子の最期が実はあの磔刑像であるということを知り、激しく混乱し動揺したことを覚えています。このような訳で私の心にキリスト教というのは何か理解しがたく恐ろしいものとして刻まれてしまったのです。

やがて20代になりインドを旅したことから、私は宗教に関心を抱くようになりました。そしてイエスの磔刑像というものが、イエスの受難そして贖罪を表しており、これに手を合わせることはイエスの愛を思い起こすことであるということを知りました。しかしそれは必ずしもリアリティを伴った理解ではなく、それ以上先に進むことはなかなかありませんでした。そのようなわけで、初めて自らきちんと聖書を読んだといえるのは恥ずかしながら30歳になろうかという頃でした。

キリスト教との再会はしかし素晴らし
いものになりました。そのきっかけを与
えてくれたのは、宗教人類学者・山形孝
夫先生の『治癒神イエスの誕生』でした。
治癒をもたらす神、病気治しの神という、
必ずしも主流の理解とは言えないかもし
れませんが、宗教人類学者である山形先
生は、イエスをそのように病気治しの神
として捉え直しました。その本を読んだ
ことがきっかけになり、私のキリスト教
観は大きく変更されることになりました。
この本に描かれた、治癒の神、病気治し
の神というイエスの位置づけは、それま
での私の誤解を大きく正し余りあるもの
でした。それをきっかけに私は初めて本
格的に聖書、とりわけ福音書を読み、イ
エスによる数々の奇跡的な病気治しがそ
こに相当な熱量をもって描かれているこ
とを知りました。

ちょうどその頃、私は大学院でインド
のヒマラヤ奥地にあるラダックという地
域のシャーマンによる病気治しの研究を
しているところでした。そしてそのシャ
ーマンによる病気治しと、福音書に描かれ
ているイエスによる病気治しの数々が、
構造的に多くの共通点をもつというこ
とを知り、それまでの誤解と偏見が一気に
氷解したのです。福音書の記述を読むと、

病気を治癒に導くことは、目が見えなかつたのを見えるようにする、傷ついた肌を滑らかにする、というような症状を改善することであるだけでなく、その人が病気であることにより背負われている社会的な負荷、つまり「罪人としての病者」というスティグマ（烙印）を取り除くことでもあり、これによりその人の心の平穏、その人と周囲の人々との関係性の平和を取り戻すことだったということがわかります。イエスのその後の活動、すなわち社会的な障壁を乗り越えようとする働きは、一般的なシャーマン的な治癒の枠組みを超えていく独自性を示していますが、それもまたその出発点にあたる、人々を癒しそのことにより社会に平和をもたらしようとする活動と同じ動機に基づくものであったのです。

このような発見により、私はイエスの磔刑像やそれに手を合わせることにしても、病気治しの延長線上にあるものとして想像し直すことができるようになりました。あの姿は人々が背負っている病気、そして罪を一手に背負い、自らを捧げることにより愛、言い換えれば究極的な平和、これを実現しようとしている、そのような姿だったのです。私たちは日常生活の中で他者に悪意を抱いたり、

あるいは嫉妬したり、このような小さな心の病を抱え込み、自らの平和を乱しがちです。聖書を読みイエスの言行に思いを馳せることは、そのような自らの罪と向き合い、それを癒し、私たちに心の平和をもたらすことなのではないでしょうか。

(みやさか きよし 国際文化学部准教授 2025.7.17 しろとり平和を願うチャペルアワー奨励)

「科学と基督教の違い」

山 口 弘

さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。

(新改訳2017 新約聖書 ヨハネによる福音書 9章1～3節)

1. 科学と基督教の違いを示す指針

—HowとWhy—

本日のチャペルアワーでは「科学と基督教の違いは何か」をヒントに、イエスとはどのようなお方なのか、少しお話をさせていただきたいと願っています。

みなさんは、科学と基督教の違いは何だと思われますか。いろいろ答え方があると思います。その答えの一つが、英語のHowとWhyの違いだと思います。HowとWhy、いずれも日本語では「なぜ」「どうして」と訳すことのできる言葉です。しかしHowとWhyは、明らかにしようとする事柄が全く異なります。

たとえば、科学は「みなさんはなぜ生まれてきたのですか」という問いに、お父さんとお母さんの精子と卵子が受精し、

細胞分裂が起こり、お母さんのおなかの中で手や足、内臓が造られ、時至り生まれてきましたと、そのプロセス、因果関係を説明します。これがHowです。

なぜ、リンゴは落ちるのですか。それは重力によるものです。これもHowです。この中にはバスケットボールをしておられる方もいらっしゃると思います。スリーポイントシュートの成功率を上げるためにはどうしたらいいのか。この問いに答えるのもHowです。

Howとは、あるいは科学とは、今、目の前に起きていることが、どのような理屈、因果関係で起きているのか、そのことを理論的に説明することに関心があ

ります。一方Whyの関心は、別のところにあ

ります。たとえば、あなたの生きる意味は何ですか。あなたは何のために生きているのですか。あなたが名古屋学院大学の学生である意味は何ですか。なぜ私は試験や就活でこんなに苦労しなければならないのですか。なぜ、人間は戦争をやめることができないのですか。そんな目の前に起きていることの、存在そのものの意味や目的を明らかにしていく。それがWhyです。

2. 聖書の中にあるHowとWhy

本日お読みいただきました聖書の中に、このHowとWhyが登場します。HowとWhyの問いの対象になったのは「**生まれたときから目の見えない人**」です。

2000年前のイスラエルで、生まれたときから目の見えない人が生きていくことは、精神的にも、肉体的にも極めて過酷なことでした。この人に寄り添い、共に生きていこうとする人など一人もいません。おそらくほとんど稼ぎのないこの人は、早く死んでくれた方がありがたいとさえ思われていたはずです。そんな中で、周りの人たちからも、おそらく両親からも、「なぜお前なんか生まれてきたのだ」と、自分の存在を根本から否定される言葉を、子どものころから何度も何度も浴

びせられながら生きてきた。それがこの人だと思えます。

3. 弟子たちの関心

そんな自分の存在を肯定できない現実を生きるこの人を、イエスの弟子が見つけます。そしてイエスに問うのです。「先生。この人が盲目で生まれたのは、**だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか**」と。

弟子たちは目の前の人の苦しみになど関心がなかったようです。弟子たちの関心は、この人の不幸の因果関係、Howを知ることになりました。そしてイエスに問うのです。「なぜ、この人は生まれたときから目の見えないのですか」と。

みなさんはこの弟子たちをどう思いますか。私は、この弟子たちが他人とは思えません。誰かの苦しみや悲しみを前に、その人の苦しみなどに何の関心もない。むしろ評論家のように、あれこれ理由を詮索している自分が確かにいるからです。

4. イエスの関心

では、弟子たちからHowの質問を受けたイエスはどうか答えたのでしょうか。イエスは「**この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神の**

わがが現れるためです」と答えました。

イエスは、弟子たちのHowの問いに対して、Howで答えませんでした。「この人に神のわがが現れるためです」と、この目の見えない人の存在理由、存在意味、Whyを答えたのです。

「神のわがが現れるため」とは、神がどのような方なのか、どれほど神が、生まれたときから目の見えないこの人を愛しているのか、誰もがわかるようになるためだということです。

この人は、周りの人から自分自身の存在価値を否定され続け、自分自身でも否定し続けてきた人です。そんなこの人は、「この私が神に愛されていることを誰もが知るために」生かされている、価値ある存在だなんて、これっぽっちも考えたことなどなかったでしょう。

しかしイエスは違いました。イエスはこの人自身も知らない、この人の本当の生きる意味、Whyを知っていました。そして多くの人の前でそのことをあきらかにしたのです。それだけではありません。この目の見えない人の生き方を、ずっとずっと自分を否定してきたこの人の人生を変えていったのです。

5. 私の本当の生きる意味を教えてください方

私は何のために生きているのか。私の生きている意味は何なのか。世の中には、その意味がわからず、さまよっている人たちがたくさんいます。中には、この目の見えない人がそうだったように、悲惨な現実を前に、前向きにその意味をとらえることができない人もたくさんいます。それは今に始まったことではありません。時代や場所、人種や性別、年齢にも関係なく、人間が問い続けてきた問いです。

では、その人間が問い続けてきたWhyに誰が本当に答えることができるのでしょうか。聖書は、そのWhyに正面から答えることのできる方がいると語ります。それは、私たちを偶然に生まれた存在ではなく、意味ある存在として生み出した（創造した）神なのだとしています。ですから神の子イエスは、この人自身も気づいていなかった、この人が生かされている本当の意味に光をあて、はっきりと語る事ができたのです。

6. 溢れるWhyを前に

みなさんの生きる意味は何ですか。みなさんは何のために生かされているのですか。それだけではありません。なぜ、

私だけ、こんなに苦しい思いをしなければいけないのですか。なぜ、世界中で戦争や貧困がなくなるのですか。私たちの周りには答えが出ないWhyが溢れています。

そんな溢れるほどのWhyを前に立ち尽くしている私たちのもとに、本当のWhyを答えることのできるイエスが与えられた日、それがクリスマスです。

皆さんはこれからもずっと、答えの出ないWhyとたくさん向き合って生きていくのでしょうか。その時、今日のことを思い起こしていただきたいのです。イエスは、いつからでも、どこからでも、イエスに心に向け、イエスに聞こうとするあなたのWhyに向き合ってください方です。

もちろん、すぐに答えを与えてくださるとは限りません。けれどもイエスは、目の見えない人に本当の生きる意味を教え、その生き方を変えていったように、

あなたに「あなたの本当の人生の意味」を、「あなたの人生が無意味ではない」ことを、あなたと共に歩みながら必ず示してください方です。その方を、今日、覚えていていただきたいと願っています。

祈りましょう。

クリスマスの日に、私たちに本当のWhyを教えてください方イエスを与えてくださった主よ、あなたの御名を讃美いたします。

私たちの周りにも、答えの出ないWhyが溢れています。その中で、私たちはさまよいます。

主よ、そんな私たちがますます顧みてください。

あなたから生きる意味を深く受け取り、顔をあげ、生き生きとした新しい人生へと歩みだす者としてください。名古屋学院大学のみなさまのXmasの日々をますます豊かに祝福してください。

(やまぐち ひろむ 日本キリスト改革派名古屋教会牧師 2025.12.17 瀬戸クリスマスチャペルアワー奨励)

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」等のお話をブックレットにまとめています。ご希望の方は、キリスト教センターへお問い合わせください。大学ホームページからもPDFファイルでご覧いただけます。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纓)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(相木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？
—こどもの物語と聖書に見られる<しょうがいき者>差別—」
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなに人？—問(はざま)から読む聖書—」(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳—野宿生活者の現場から—」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウイツシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？—神教がアブナイ？」(桃井 和馬)
- No.21. 「福田敬太郎—神に向き合った生涯」(小野 静雄)
- No.22. 「F.C.クラインと『敬神愛人』」(黒柳 志仁)
- No.23. 「祈りつつ学び、感謝しつつ働く
—内村鑑三、名古屋英和学校赴任のころ—」(葛井 義憲)
- No.24. 「NHK連続テレビ小説『エール』とキリスト教
キリスト教主義大学が大切にしたいこと—『敬神愛人』(西原 廉太)
- No.25. 「『迷い出たダンゴムシのたとえ』がわたしたちを生かす」
(早瀬 和人)
- No.26. 「中山間地のソーシャルワーク」(越智 祐子)
- No.27. 「キリスト教学校が大切にしてきたこと—神の言葉はとこしえに立つ—」
(神山 美奈子)
- No.28. 「僕と歌と教会」(陣内 大臈)

麦粒／第146号 2026.3.18 発行 名古屋学院大学キリスト教センター

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号 ☎ <052>678-4096